

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32680

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12963

研究課題名（和文）青年期に及ぶ地域コホートデータを活用した学校不適応への早期支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Early Intervention Programs for School Maladjustment Utilizing Regional Cohort Data Spanning Adolescence

研究代表者

田中 笑子（Tanaka, Emiko）

武蔵野大学・看護学部・講師

研究者番号：40727278

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、子どものウェルビーイングに影響する要因に着目し、地域との協働による早期支援プログラム開発と検証を行った。国内外の先行研究より、地域の中で子どもの居場所や社会活動の機会、親支援を行っている事例を整理し、プログラムの効果を検討した。また国内外のコホート研究を参照し、評価指標を検討した。地域特性を生かした支援プログラムの展開と評価を実施した。地域と連携したコミュニティ活動への参加は、社会とのかかわりを高め、健康に関連したQOLの向上につながることを示唆された。今後は詳細な要因分析を継続するとともに、コホート連携を進め、他プログラムとの比較や長期的効果の検証を行う。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当事者の力を引き出すエンパワメントの視点からは、子どもと養育者の抱える困難に早期に気づき、さらに当事者の強みや活用可能な資源を見出すことで、育児環境や仲間関係、地域とのつながりを促進する仕組みづくりが有効である。

本研究は、生涯発達とコミュニティ・エンパワメントの視点から、思春期におよぶ学校不適応に及ぼす社会とのかかわりの影響を明らかにし、地域連携型の予防的支援モデルを示した点、コホートデータを用いて検証している点、国際研究セミナーおよび研究会議を開催し大学院生から子育て中の研究者、先導的立場の研究者までが多様な研究者が議論する機会を確保し、国際共同研究につなげており、学術的意義は高い。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on factors influencing children's well-being, developing and validating early support programs in collaboration with local communities. It draws upon domestic and international research, organizing community-based instances providing social engagement, belonging, and parental support, assessing program efficacy. Reference to cohort studies informs evaluation metrics.

Programs, leveraging local traits, were implemented and evaluated. Participation in community activities suggests enhanced social interactions and improved health-related quality of life. Future efforts entail detailed factor analysis, advancing cohort collaborations, comparative assessments, and long-term efficacy evaluations.

研究分野：子ども学 生涯発達看護学 子ども家庭福祉

キーワード：コホート研究 社会性 思春期 学校適応 コミュニティ・エンパワメント ソーシャル・キャピタル
ウェルビーイング 生涯発達

1. 研究開始当初の背景

子どもと養育者を取りまく社会的環境が急激に変化する中で、虐待や社会的不適応など特段の配慮を要する子どもと養育者は増加傾向にある。近年の虐待報告件数の急増、学校不適応への対応は喫緊の課題である。現状では、子どもの安全確保が最優先となり、社会的養護による家族分離や、学校不適応児の教室からの排除などが主流であり、学校不適応に至る前に、子どもや養育者を支援する取組みは必ずしも十分ではない現状がある。加えて、学童期、思春期の心身の不調、非行など広義の学校不適応は、抑うつや反社会的行動など、青年期以降のより深刻な社会的問題と密接に関連することが指摘されている。このため、問題が深刻化し、子どもの社会的排除に至る前の予防的介入の視点が重要である。米国の Adverse Childhood Experiences (ACE) Study は、虐待など小児期の逆境的体験がその後の自殺など、将来の健康に影響することを報告している。生涯発達の視点からは、乳幼児期の環境がその後の生涯に及ぶ発達、健康に長期的に影響することが明らかであり、乳幼児期の育児環境が、就学前の社会性発達および、学童期以降のストレス反応に関連すること (Tanaka, 2013)、虐待には養育者の育児不安や、孤立、子どもの障害などの要因が複合していること (望月、田中、2014)、が示唆される。

地域とのかかわりが学校不適応予防につながると考えられることから、子どもや家族、コミュニティの力を引き出すエンパワメントの視点から、当事者を巻き込み、介入プログラムを共創することがより効果的と考えられる。国内では、学校運営協議会制度やアフタースクール事業などの取り組みが散見されるものの、地域コミュニティの力を活かした学校不適応予防の取り組みについて、そのプロセスと実施効果を科学的に検証した研究は乏しいのが現状である。

2. 研究の目的

本研究は、地域コホートデータの活用により得られた学校不適応などの学童期、思春期のウェルビーイングに関する地域連携型早期支援モデルを発展させ、地域コミュニティの力を活かした支援プログラムを開発し、検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) プログラム開発に向けた事例検討とプログラム内容の検討

文献レビュー、資料分析、フォーカス・グループインタビューなどの質的研究を実施し、プログラムに含める要因を選定した。同時に、幼児期の育児環境、貧困、虐待、仲間関係、気になる行動、地域とのつながりなどの予測される影響要因について、発達や、学童期以降の学校不適応に及ぼす複合的な影響を、経年的な多変量解析により思春期、および青年期の適応とウェルビーイングを把握するための項目を選定した。

(2) プログラムの開発、実施

選定した内容を整理し、乳幼児期・学童期から思春期・青年期におよぶ地域と共創したプログラムを開発した。

プログラムに携わる専門職へのインタビュー、関連分野の研究者および実践者とのディスカッションを繰り返し、プログラムの調整を行った。

(3) プログラムの評価

プログラムへの参加と思春期、青年期の適応、ウェルビーイングへの影響について、量的分析により明らかにした。

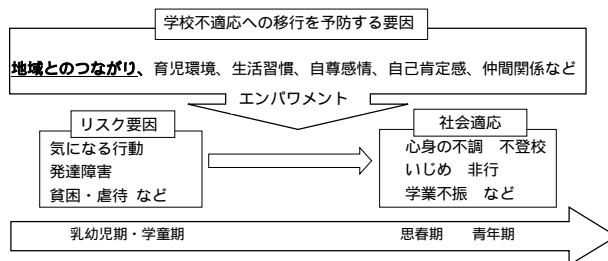


図 1. 地域連携・共創型支援モデル

4. 研究成果

(1) プログラム開発に向けた事例検討とプログラム内容の検討

国内外の先行研究およびインタビューより、地域の中で子どもの居場所や社会活動の機会、親支援を行っている事例を整理した。また国内外のコホート研究を参照し、評価指標を

検討した。地域との協働による早期支援プログラムとして、多世代が参加できるコミュニティ活動、生活習慣および運動習慣への働きかけ、親支援、居場所づくりが抽出された。また、コミュニティ活動の具体として、健康づくりに関するもの、防災・減災に関するもの、地域づくり(コミュニティ菜園など)に関するもの、支援を必要とする子どもと家族を対象としたもの(子ども食堂など)が抽出された。親支援に関しては、学校を中心としたもの、地域を中心としたもの(保育園などこれまでの関係性を基盤とした社会資源を含む)、インターネットを中心としたコミュニティが抽出された。居場所づくりでは、自治体を中心としたもの、学校を中心としたものに加えて、NPOやその他の地域資源(保育園を含む)が抽出された。

(2) プログラムの開発、実施

抽出された内容をもとに、健康づくり、地域づくりについて、プログラムを構築、実施した。の防災、減災についてはアイデアにとどまり、プログラム化には至らなかった。

具体的には、多世代で参加可能な健康づくり活動、地域づくり活動への参加を促すプログラムを開発、実施し、参加による効果を質的、量的に検討した。

(3) プログラムの評価

プログラム参加により、社会とのかかわりの増加と、健康関連QOLの向上が示された。また、質的なインタビュー調査により、プログラムへの参加は「やってみよう」「おもしろい」「楽しい」といった意識を高め、ソーシャルキャピタルを高めることが示唆された。

今後は、要因を統制し、多角的、長期的効果の検証が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Ammara Ajmal , Emiko Tanaka , Kumi Watanabe , Hiromi Atsuzawa , Yoko Onda , Dandan Jiao , Munenori Matsumoto , Otorirei Sato , Xiao Cui , Panpan Chen , Xiaoyue Tao , Sana Boutefnouchet , Xiaoyu Chen , XiangLi , Tokie Anme	4. 巻 1
2. 論文標題 An eating behavior; consumption frequency of certain foods in early childhood; as a predictor of behaviour problems: A 6-year follow-up study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sultan Qaboos University Medical Journal	6. 最初と最後の頁 in printing
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 田中笑子, 富崎悦子, 渡辺多恵子, 澤田優子, 田中裕, 酒井初恵, 安梅勅江	4. 巻 31
2. 論文標題 エンパワメントアプローチによる多職種連携プログラムの開発と評価 子育て支援専門職のコンピテンシー向上を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生存科学	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Hilda M Agil, Kumi Watanabe, Emiko Tanaka, Yati Afiyanti, Tokie Anme	4. 巻 23
2. 論文標題 Factors influencing Indonesian male partners' support in the postpartum period	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Makara Journal of Health Research	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7454/msk.v23i2.10636	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 厚澤 博美, 田中 笑子, 渡邊 久実, 渡邊 多恵子, 安梅 勅江	4. 巻 26
2. 論文標題 成人期の社会とのかかわりと精神的健康の関連：年齢階層別の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本保健福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Etsuko Tomisaki, Eniko Tanaka, Taeko Watanabe, Ryoji Shinohara, Maki Hirano, Yoko Onda, Yukiko Mochizuki, Yoko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anne	4. 巻 6
2. 論文標題 The relationship between the development of social competence and sleep in infants: a longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Child and Adolescent Psychiatry and Mental health	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13034-018-0258-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuning Zhang, Eniko Tanaka, Tokie Anne, Shigeyuki Mori, Robert Bradley, Jennifer Y.F. Lau	4. 巻 91
2. 論文標題 Japanese residential care quality and perceived competency in institutionalized adolescents: A preliminary assessment of the dimensionality of care provision	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Children and Youth Services Review	6. 最初と最後の頁 204-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chilyouth.2018.05.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 田中笑子, 富崎悦子, 園田和江, 澤田優子
2. 発表標題 健康と社会参加促進に向けたコミュニティ・エンパワメント研究2: 減災とレジリエンス
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中笑子, 富崎悦子, 安梅勅江
2. 発表標題 乳幼児期のかかわりが3歳時のHarmonyに及ぼす影響の検討
3. 学会等名 第33回 日本保健福祉学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tanaka E, Watanabe T, Sakai H, Anne T
2. 発表標題 Evidence based Child Care using Interaction Ration Scale
3. 学会等名 Second Forum of Child Care and Education (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka E, Watanabe T, Tomisaki E, Watanabe K, Sawada Y, Anne T
2. 発表標題 The effects of regularity in the lifestyle habits and social ties on later physical well-being among in Japanese adolescents : Longitudinal perspective
3. 学会等名 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka E, Watanabe T, Tomisaki E, Watanabe K, Sawada Y, Anne T
2. 発表標題 The association between social interaction and family well-being: Focused on the potential possibility of community rehabilitation and empowerment
3. 学会等名 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka E, Sawada Y, Tomisaki E, Watanabe T, Watanabe K, Onda Y, Atsuzawa H, Anne T
2. 発表標題 Relationships between the perinatal factor, early home raring environment and later behavioural problem of children: A longitudinal cohort study
3. 学会等名 DOHAD2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中笑子、富崎悦子、渡邊多恵子、安梅勅江
2. 発表標題 エンパワメント.アプローチによる多職種連携プログラムの開発と評価生涯発達の見点から
3. 学会等名 第32回日本保健福祉学会(山梨)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中笑子、富崎悦子、澤田優子、渡邊多恵子、渡邊久実、厚澤博美、恩田陽子、丹羽一絵、奥村咲、奥村理加、伊藤澄雄、安梅勅江
2. 発表標題 地域子育て支援の実践と評価第四報 育児環境変化に着目して
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Li X, Tanaka E, Watanabe K, Atsuzawa H, Ajmal A, Matsumoto M, Jiao D, Sato O, Onda Y, Chen P, Tao X, Cui X, Boutefnouchet S, Chen X, Anme T
2. 発表標題 The association between home-rearing environment and child development among Japanese children aged 0-6 years old
3. 学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chen P, Tanka E, Anme T
2. 発表標題 Association Between home-rearing environment and social skills among 6-year-old children in China
3. 学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中笑子、Zhang Yuning、Lau Jennifer、澤田優子
2. 発表標題 思春期の認知バイアスと精神的健康の関連:The Emotional Visual Search Task (EVST)日本語版を用いた検討
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中笑子
2. 発表標題 親子関係を行動から測る かかわり指標 (Interaction Rating Scale) の国際比較と今後の課題：日本での調査実践から
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka E, Nurdiantami Y, Tomisaki E, Watanabe T, Meiryandah H, Watanabe K, Sawada Y, Anne T
2. 発表標題 Child peer-relationship and social competence by using Interaction Rating Scale for Children (IRSC)
3. 学会等名 The 6th Asia Pacific Congress of Pediatric Nursing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中 笑子、富崎 悦子、渡辺 多恵子、渡邊 久実、澤田 優子、年野 朋美、坪田 彩、厚澤 博美、伊藤 澄雄、奥村 理加、安梅 勅江
2. 発表標題 社会的かかわりが子どもの社会適応に及ぼす影響：18年間のコホート研究に基づく検証
3. 学会等名 公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田 優子、田中 笑子、渡邊 久実、渡辺 多恵子、河西 敏幸、伊藤 澄雄、奥村 理加、安梅 勅江
2. 発表標題 学童期の主観的体力リスク低減と育児環境との関連
3. 学会等名 公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富崎 悦子、渡辺 多恵子、田中 笑子、澤田 優子、安梅 勅江
2. 発表標題 養育者が子どもをたたく要因の検討
3. 学会等名 公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 年野 朋美、田中 笑子、厚澤 博美、渡邊 久実、渡辺 多恵子、伊藤 澄雄、奥村 理加、安梅 勅江
2. 発表標題 社会とのかかわりが防災活動参加に及ぼす影響
3. 学会等名 公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Emiko Tanaka, Etsuko Tomisaki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Empowerment Research and Education Forum	5. 総ページ数 6
3. 書名 Empowerment Based Co-Creative Action Research; Towards A World of Possibilities for Sustainable Society	

1. 著者名 Anme Tokie , Tanaka Emiko , Tomisaki Etsuko , Watanabe Taeko	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Nova Science Publishers,	5. 総ページ数 16
3. 書名 Horizons in neuroscience research; A theory of mind as an implication of empowerment	

1. 著者名 田中笑子、富崎悦子,Yuning Zhang	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 4
3. 書名 エンパワメントの理論と技術に基づく共創型アクションリサーチ：持続可能な社会の実現に向けて	

1. 著者名 Tanaka E, Tomisaki E, Watanabe T, Sawada Y, Otaeko M, Anme T	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Nova Science Publications	5. 総ページ数 14
3. 書名 Interactive Community Empowerment program and Adaptation of ICT for Health Promotion: Life Course Approach with Longitudinal Cohort Study	

1. 著者名 Tanaka E, Tomisaki E, Watanabe T, Sawada Y, Anme T	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Nova Science Publications	5. 総ページ数 184
3. 書名 Interactive Community Empowerment program and Adaptation of ICT for Health Promotion: Life Course Approach with Longitudinal Cohort Study	

1. 著者名 Watanabe T, Tanaka E, Tomisaki T, Shinohara R, Sugisawa Y, Sawada Y, Tong L, Mochizuki Y (Ed, Anne T)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Japan Pediatric Publication	5. 総ページ数 60
3. 書名 Empowerment Science for professionals Enhance Inclusion and A World of Possibilities	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------